稽古之みせん

一

へ 13
3133
1

へ13
3133
へ13
3133
1-3

夫高紀をひもとく家業なれども
世俗拙と言むも世代しとなむのなら
ずとて巻の子時行ものあり其の
巻中に戦争画楽書いゆるまと
ひもとに市ける

昭和九年九月十二日購求

貸本元
大野屋亀吉

亀

稚古三菓線序

花はとゝとゝ謳ふまで養ふ男女の
中をも厚らぐ。月ふう我ふく為は
うもの三菓線あり。猛きこと荒く海の
さく波紋も感ぜむ。彩作は芝ぶく
法くらう。五風十雨は調子歌時を

たゞそんず。實ふ太平の世はあてあそび
ゝとはといふりぬ。されど夕アふ器嘴
女郎ゝ流とうだ免きても。功ゝり名
ひろめはあ茅ゝ。茅ゝ軒端は
門ふ。ふ仏基とふのゝふれをのゞせべ。
河内かゝひは君ゞめとふ寿はどふ

うのを人いづれをうんてもひゝのふ
大将その聲吉所は宛を寄ゝ
小冊い吾式亭の作意ゝり。ゝゝらあれと
催馬樂うゝふ春ゝまゝく。駒曳秋は
ゝゝゞよゝと病の床ふ
ゝふのゞゝて。はゞ俗ふ文筆はゝもふ

もあるまゝに。南柯笑の世もおもかげ
頻りなり。されども固辞して出ず。
ゆゝしび漸再度に及んで労は今の事
に授せゝまとりたをたきさゝ社稷の系
書ゝ名。贈古三墨線と表題。
及つゞまるそのとりの。陽出せるを。
有名。楚満人いとゆゝ三墨と雅名
せゝ。それゝみゝあきゝとゝもるんば。
稲穂はいるゝこゝろく。かんだ月
寿ゝりあけ。ヱへまくよ猫の皮ト。

古今亭

三島誌

竹ごん
中井麻場

盛と踈花 洗墨中

鶴皐題

風流誓古三脇巻之上

江戸　式亭三馬原稿

第一計

弓矢のあらぬ祝ひの時々そなたてきさき番のけんと

一間の出格子三尺の開きハ。母親の丹誠よ出そう。連枝窓の紋尽しハ。てうちんやのお家子ゝら付届け。うら口の障子ハ切張ゝよ。角木瓦の角を張洗ゝ。腰張りの石拐ハ。お接の時す

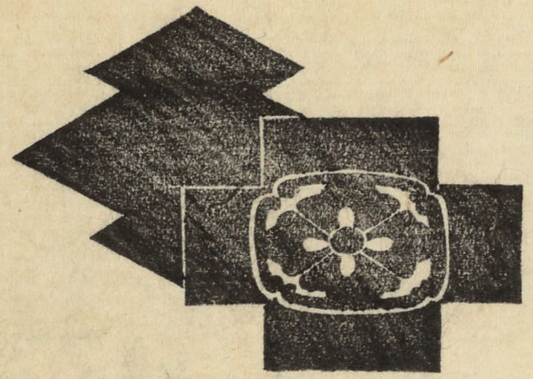
ちゃづけ。入口の掛札中銅壺より出でて墨くろ
ぐろと。性名を殺いしるハ搗物町へ立籠句よ
南一づくの名取うるべ一とのころ二十三三でうちとしく
ちよとあさぎの男おびをぐるくとまきよふどをつのうぐら五寸
のくさびとこを結らうのちぎまろでのみうぐら。むろうをうてわる。
ころうごうあ鐵とーのとろ六十二三まうぐろ下の日のもとこ入よ。ちりちんの
つぎくのどぎをうくひうちけ。今ーの月とちやづけがやうをあらの
うぐら。うぐーのあうびいのうろわあうろうのうけを親おびよこ一コウ
肥てうふ小ぐをうらべうけるあそ巣ぐうり
あやたや。ちうこと鐵をつけ祝くよ。きんゆうふてあくが昨日
茶灌をあまくうりこ時。おうくことの尾でこげく洗

たんぐうう。ホンニおくくあやうとまうよ。うんぐく親へ
かくきん。うちぐうけあうふをーこと。くこ親へ何ぐやア
紙くうる。たくげ既きまこんぐう。との尾で茶鍋を
そうちうーうう。とうでうまをうりさ
ちうに茶灌がひうるとおりくうら。だうくーの
たくく夏をすうやア。うくううこと夏ちあれくョ。いう
まぐも子供ぐやアあんめくー。ちんうに氣をつけ有
紙くよ。あた「そま」ぐうもあちねくうちぎをうてく

ものとひとやう行くうナ　母親「コウそのものとその
そんな事をいふ。ひとを十二のものうナ　書生「おれ
「まつましいヨ　母親「うんぞと　書生「うゆもいやうあれ
へうとト　書生「コウおやたうんでといふと
よりくつんくするぶ。そまでひとり人中へ出らまうん
うナ。とわくぐものん太文さんのおきとよのきれく
くとうのよ。酢ぐものとんよやくぐのとのいく。
とうくいう行くとやう行くう。そのとたおぶ何と

りくぐそまどやう従来の二面でもできれへゆうで
そうとも行くうら。一すでも顔を出せすうちやうお
たげくよせうべ家づぐうらと。それくよいのも。
みんな親ハうるさうりとてくを人よりうらせあと
世のたらうあんぐうる。親の子あらずといひ氣
脅腹
よりうくぐくらくとちやらつくせへ。何とこのの
と直ぐぷくうんとふくまで。せうせへふぐうらつり
とうとちのうつらうして。親でのうとて
泣寄　泳　敬　此旅

常磐津文字家喜



のかものろ　あるじ「そまでごろらァノ時アひとろ五さイ
とごろんで従弟をりこしてゆりころらいひトかい
稼くろナ　母親「ヘン又ふちどう世ろうナトいひろらくをを
かこてぶせうじを　よとのあへつまり
あけこごらあどべ　あやさん入くろんん稼くよ。きんふろも
あるくいまてろまと稼くゼ。もやたセこのぜれく生ーて
ろんる　火だちのまをを　あるじ「かくさん愛ゆやア稼くヨ　母親「ヲ三
稼くとぶあるんろ　あるじ「そまぶごろうても　愛ゆやア
稼へもたれくものウ無理なとんぶアろり　母親「そんろ

如来　ゆくまくさゆよあろくろけ。ろそて見れくナ　あるじ「ろく
とぶことをのろ　チョット待ちあをちゃぶら押入とをろり金の
サアとけくおくヨー　三尺ぶびそひとろ山せんを見ろくてきとり
あてぶろく　かん太郎「あんぶもあんぶきん。あちやうさんいうち
ろあらけくゆよのくがよよよ　師匠「ハ稼稼稼くの　あるじ「ろん
きんあくぶけくいろんぶ　かん「きろきさきろ京橋へろす
ろくろウけけけくよ　母親「あくのよのくの直る菜の
かん「ヘンおおあくろあくろぶけぶ。あらよのくぶやろ稼く

銭くすねくすのを。ノウちてよさん（師匠）　寅「そよサ人が
つまら銭くことをのみのう　かん「ちちちげく銭くのまま
まん中ぐ。ハハハハ　寅「かんさんおく京ぐとくのく
うら。のうりぎんみちこう去（知居）のてるぐろう　かん「ちち
ちちねくでサ。名名名名ぐッとぐのう　寅「ちげ遠くねく
そんうらのつのぐよ坂本（さかもと）とのよんでの仙女香（せんにょこう）と
のよおしくをかのく来（き）ておんを　かん「おおおを（白粉）
へろ。ぐぐぐぐそんぐ。ぜぜぜぜねくぐぐぐ銭銭銭銭ぐう

にとねくぐう仙女香（せんにょこう）ハたたたたありぐう　寅「かくさん
ぜぜぜぜ銭銭銭銭ぐう　中（ぐ）ておくを。　母親「エそうせく子ぐう。そと
ふあらうナ　寅「どとふョ　母親「そのちくの引（ひきど）ちくよ
あるハナトをまく心ぐすのひきぐをあけ浅（ぜん）を　寅「かくさん
中（ぐ）ての内をのくかたくよくよくよ
まちけくうんうく　かん「そてたぐうのうぐや。そそそんる（卓）
間（遠）
かんとてうぐめう銭くぐ。　寅「ぐくぐとおのぐうも
酒（太郎）　銭（銭）
銭くトうち　寅「イョうりうめう引　かん「ヘンあのぐとく
エくくくくく　母親「コレサかんさんまとぜぜねくおとくえん銭銭銭銭

るよ　かん「おくびらいつぜぜぜぜねくあつとらいつぜだぜだろア落
のとねくあんぜ。そそそん祝くるまちあけどやア祝
祝くぜエへへへへへ　母親「そんるらいくけどもあぶねく
あんぜ　かん「おくおそきんがあん祝くよいるや。おら
よろ爲へ　母親「何サあるやア喧ごよ。後生ごろら
のりて来ておんま　かん「おくおんぐそんるあいるや
いろくきてゆ爲へ　母親「そやくいろて来くくんる
のひとこのう　かん「おくおちるふうるくーぐやせ西あく
焼

あんぐの。エへへへへ。どくいくいりてとろふうト　おくいくしるぐら
そそへ　母親「こまりあんぐのの　母親「あんるのるアつけへ使
うんる。せるぐゆゆくるうるやア去れへ本ニそうやア
そふくきりきの社ぐをありていくゆらぎアるる
めへ。チョッとうるんまぐのひよト　いちぐら去れ　赤ぐの去ぐるくうしるぐ
のるこのまをぐてちりを　そまでもるうア祝へ縞ぐのト
いまりをけてるぐら　悪
かるくまにあちあげてるんせる　母親「ろちやアそんる縞ア　母親「そそんけ
ちくぶらきあんぐけまぐ。さのみうつちやりこ　格

めんでもねく。コウおらァ（らくと）すりつく来るうらの。孫
やさんがきてこうらい わるいくさ（如来）あく。（孫）おのれアうつて上（あげ）
孫くよろふい妹（いもと）の せうつきめく（名日）ふちごゝ ゆつとことサ
ト さらあがりけこゝろ と火だちのそぶくるとーかまのうへのふきんを
よくひろげかゝとの為くこぞつりげことふちごどみをえたあ〜へ
つゝうけうぞらぞうきんをうこうぐーのふちへ おとこうアーとすれめ
うけうぞらをとらをぞろくくんすまて 花
へよト おのてくだれぶうりのかゝさる
ものヨやくとまけくものを（小細）
よくとんれくよ（張）おくてる せくまゝこの。てくナとり（大体）（夏）
ちやア 孫くこ子。（大）ふきいめんで せく。うんぞのうぞのと

うる せくめんぞふ。ホ三よくあくてるけうこのう吉さん
ハあおすびうく。とねくぞどやア（大分）でぐぶ おとるゝくある（成長）
つぐこ子。めたれでもうちくおゝぶうら。あめく
きんのお世話（せわ）もちくこいひとりよめんぞヲホゝゝ。
何（サ）ちうとそとまでサ。（少）おくこのんやまたトひとう（ちとちく）あぞの（ちとちく）ぞく
ゆふこうはナぐらいのかゝ世話（ゝゝ）
分をよくくんてよびうけ 髪結（はい）さんくおめくうゞぜ
きてんまねくのぞ。あのうが モウ ゆうゝこうてうら
孫くョのんてちてくんうく。おあんまゝ キトトのひ

とをいうて　○　あるいはそこらこうろうこうづけ。大ぶちへすみをつぎぬっく
たっりゆく　○　あるこ茶を一トロのみ　ゆ　ゆ　ゆ

かどをく。よのくの夏で門の若するちう所へ
かけつけ。そまはやりどもハちうとでるよ
も四月分部屋へまのりくで門札をかりねば出
らまぬちうものごうら。とまりたてるじやテ 夏ヲ
ヤくもづうのめんざ子ヱ 子五「さればサ。今日拵も
お役の戸倉傳五左ゑんが。お寺糸縒ようまのうこ夏
昼前八十ケ番をいてあうこ夏。先生の方へ
まのうめ。毎朝いてあのうこてナハハハハ 夏発「本三

まうお屋敷とのうのうア。義理のりてへめんど子ヱ
ゑてらぶトうるぞんせへ者へあア。こらちやあの
らまとねへ子ヱ夏きゑ夏ぶのうえのというこよ
芝居うえざアえらまめへ子ヱ 子五「どのいてて
お中屋敷へいらつ長ちうあ。うくうは二くハ。
おづむ夏も出来うれテ 夏「ヨヤくきうこうあん
さ子ヱ。そのうておまへうんざア。何を世ウ屋へをす。
んざヱ 子五「役向ウナ。役向ハお屋敷のお術方と

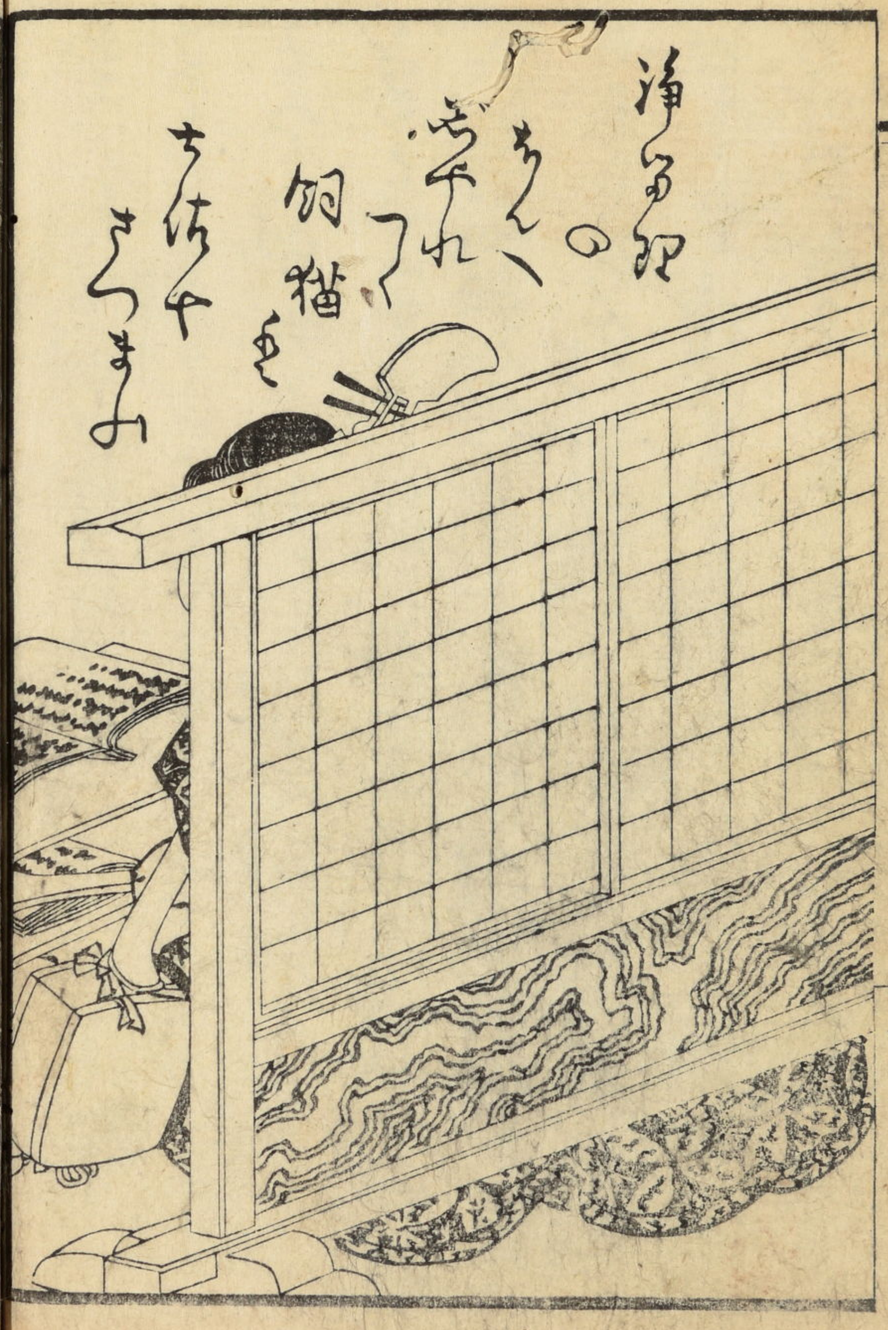
いのてきるぐ小買物の須へらう。小役入方の中役
るごとを割りとる役で。とんと眼のうの役やてナ。
其外よお坊ちゃ元の不案扶持や何やうや皆ま
らが掛ちゃ。そまて奥向ハ又奥向で別よあるが。
マア男どもうでハ。お表のお役だうさト一人のこを
ちゃーあるやいつうふりとられば　おやの一
ごつことだりあいきろーている
りとらねへのんぐ子ヱ　ちゃ五　ナニうらんたう夏ある
のんろ　おやの　ナニサりとうちやアいるぐ子。むづうーいと

いの夏サ。ヲホ〳〵〳〵トもうるのことを　ちゃ五　こやとまハ
そふと。チトハ指南よあづくろうナ　おやの　ホンニさあ
ゆうとまさうトいひうぐらこ三味せんの　ちゃ五　イヤうやうやせバ
おくうくる夏うぐら。一昨年江戸表へ勤番よ来ってて
からぐどうぐ江戸表の冬ハ　ちうめをおくうろ
で国元へのこやげよいこそうこころうけおうこ。
ゆうくの夏でこやひやうゆ山ぐ花ようりまろ。
らのれん来年ハ国元へ登りこやが。ちまて　まて本何とおうハ

上達のこそうろう　あそた「できさうろうちやそれ。
あまのうんざらう。変の変ぐのひめんざうら。ちくと
だろりあらうと　ちきるる上ろうと　ちよ　ちまたけ　未まだよの
ぐナ　あそた「できるろうくあまん。子供でせへろうう
上ろりをろるのぐあるとまさアナト　三の糸　チョッとの
いろうようきまるヨト　大鼓　こぶの香彩の　ちりさざ　ちりろ　糸を
ちちりく　ちりまて　そうろやァそうとふきや　町の上ろうを　ちりろ
ちち五「菖蒲矢町とハ　何うる。おでぐとの夏ろうる　あそた「ろろろ

おでぐと　こうア両国のぐハナ。二丁町サ　ちち五「その夏サ
ヨーどす　国元　でハおでぐとのぐナ　あそた「ヨやく
そのろう。可笑子ヨ　丈でも　何ろく　成田屋ぐの大和屋
ぐのとのようナ。のひ役者ぐあるろう子　ちち五「ろうとろうの
ぐ。ヨぐ西方ヨ　嵐友十ナ　實方　山村兵太郎ナ　あそた
の名らいのぐ三條国右ろうナ。とのろうが指折の役者
どすじや　あそた「ヨやく　国右ろうとのとのぐが形ろへ。
ハハハハハ　ろろろろ子ヨ　ちち五「ちろのちろ夏ぐ

蓬莱山人


飼猫

あるめんろ。はの耶ア何やらの狂言のあるかしと
時よトなとしーヲそまくゑらしらげる盛裏花をあろ
くとき山村兵太郎が緋色原太で三條国あるつぐ
雑のくゆるで髪をふうと私して出るかて友十ぐ挑
負平次郎の役で大井川の先陣あらそのをいと
あくと時ハ。名らい盛やうであくと。国名つゆぐかあう
うる。ふうとでトなとしーふうとをあらぬうぐらも千ちぐ
拵量敵ハ川をはさんとあるを定とりあけ

のみをさー待ぐーいぐやあらぬ果毛の約の馬を
うやませーる。弘智の源太系清さ及。太力をすろり
と抜くまの大ぐるふぐるきり直ーくトいふ系を
見せこのんぐやろうくこデの津よまぐ仕入ハ
ゆぐーやてナ。ハハハハハ「コヤくそまぐやうえぐ子。
ぐらぐるの中へ矢口の上ろりを入ぐんぐ子一何ゲ
そのでいうのサ「そまぐでもソノあらくこぐのト
のハ文句ハ矢口の上ろりぐのを「そふうナ

おて柳原源太おやアうのヨ。ゆたり握原ごよ
子五ハアそのうのナ。イヤモ久しぶ
念〳〵夏もあるじやテ。〳〵〳〵〳〵 家元「どんるざが
どんるのを見てくれんざ絵く。おもしろうらう子エ
子五イヤ酔面白ひのうえのとたうろうちうと五日
ハ丈夫ゆおてちるじやて 家元「ヨやく〳〵ろう五日久
みぢろけく子エ。七五じやア。きやうげんが出鞠うと。
おちまいようるごろう子エ 子五「何サたれら

又外の芝居を踊るのじやテ 家元「へエそんるうらうえざ子。
五日おちやアうのけく 取督 ちろんざ子 子五「あちろん
家元「コヤとんざうんざ子エトひうぐらてこ〳〵を食サアけれと
おろくひのてるて
おろうのろ子 子五「ゆりてんざさるうろう。エヘン〳〵トさるだらいを
おろぐらのめんさちざの紙のつのところらのたうろうこの紙をつぎ
本をぐーてこ三味せん猫のうくよおたちのざでふちやるへ紙をつぎ エヘン〳〵ト
すぢめのおたちうふ 昨日の所ハ名らのいちがうの所で河がある。
ひちまてすくり
ゆあよでけぬんのざてナ。〳〵〳〵〳〵エヘン ヘンヘントなるこのをて
ヤイ
「さるやどよ時ろうけく天の羽衣うら風よ 柳びき

たゝびく三保の松原うち紀嶌が雲の上高山や富
士のゝる根ト羽衣のうらを大ご家あけてうくゝあるあるあるあるあるあるあるく
イヤこれハ無相今日摂山六郎左つどのく猛のけんと
よこゝろてそのまく本を懐中いさいさめんごんで。上
ろうの本と取遠へてまのうこ。ハ〳〵〳〳〳

ろいのぞこ「とのだうも」仲の町でくあるのしみト
いのぞこ。屁をこのしもんじやうろいこ。へあるのしみを
ヲかるのしみといふやうめいのんぞこ 与五「いくアそそ
かるぞ。ロしハ又屁をこのしもむとやうら。あハ去息ろぞ
でハあけんせんぞもぞ屁ををかくくこのしみあいさ
傾城
ちとでもあうとぞんぞあろこ。コリヤあろしいのぶ
どのも
乃ぬどや。アハハハハハ トかぞ手ぶそ 与兵「ウフフフフフ
コロらうあ
ヘヘヘヘヘヘ アハハハハハハハハハ。アせろねくトをとうろ表バ
らのあまけと

あるとのこどもとの与五たろうこのあいぐをちくとあるまく
のくらかりてもいかうふよできぬ為手ぐしいろげイまして表ネい
与兵「ろふハこヲ とくまでよしして癒ふ チエ 与五「あらいむぐ
かしの所どや。イヤ又明日の夏よ仕りませよ。ヤろく
むづうふものどや 与兵「ナニおまえちろとろえんすると
だんきろ出来まきろう 与五「でけやうろう。イヤ さあう
ろら明日ロ三ろ為ませう トこのぎこをきて上りロとありて
へエさやうろうらバト てロ為のこおぎこをしておのてくちいでしぐ
ウタイ
「さまどでも代人夜ハ人まどもひるうんくず。ある夜の

暗言ト 論のくせとうこいうぶら あやた 「花ハ桜木人も
武士とみるのひろぶら。ろぜよ女郎ぶらまつ
ステレッ チャンくト 小どくよどいろと あひら 「あやた さアん
あやた 「大きな ろえんぶ王 あひら 「今ろアうえんぶ王 あやた 「稽
古をしとのう あひら 「そふヨ あやた 「うやんサ あひら 「そふら
ゆけぶの あやた 「からろきりサ あひら 「おろげでまちアのさ
くしとョ あやた 「氣ざのう あひら 「アタサ あやた 「あまとうり
ひどのぶあるぜ あひら 「そふくのやぶのふ。とうやアのひぶ

あやく湯よいろくとト あやた 「うえんぶと あひら 「エて
つんがうぶくゥ。湯のいりくろいのとトョ あやた 「ウン二ヤ
まぶのうねくョ あひら 「二所よいろくふどやア 稽くうア あやた 「お
のらうあとうぶョウ あひら 「そふうすんうら 後よせうう
あやた 「どのでも あひら 「おうくし 後ゆやアいけうくのウ あやた 「あん 塩
ぶくあでくでいけうョ あひら 「きんうらまうくあくうふ
梅 次第
のう あやた 「そふくておくまト あひら 「エ、 あやた 「そふ
あてくんうとのウト あやた とてあくとうとてぷんぶうぶョ あひら

せてあるからきさく移くヨ　あたえ「得てあるのゞせ」
きら「そとのらサ　あたえ「そのろけるゆんぐの　四「ろ
折節七ツの撞ボヲン　とうあたえ「豆腐ゆく　あたえ「ヨやどう
ふやさんが来くヨ。日ひぐこぢろけくのう
　　短
　　米屋の鶏「トツケケツカウ

風流秘書　古三弦巻之上終